

H27(2015).9

地域と共にある学校づくり

信州型コミュニティスクール

取組事例編 4



今回は、学校支援ボランティアの活動の充実から、保護者が中心となって信州型コミュニティスクールを立ち上げた事例、本年度から始まった「信州型コミュニティスクールアドバイザー派遣事業」を活用した研修の事例等を紹介します。

保護者のボランティア活動から 信州型コミュニティスクールへ ～長野市立南部小学校～

1 学校支援ボランティア活動の広がり

- 南部小学校のボランティア活動のきっかけ
平成9年度の3年3組父母有志によるボランティア活動
- ボランティア活動の広がり
 - ・読み聞かせ ・家庭科でのミシンの使い方などの学習支援
 - ・敷地内の草取り ・図書館の書架の整備 等 50名以上の参加
- ボランティア活動の広がりによって
 - ・家庭科でのミシン学習のボランティア等、子どもたちにとっては、わからない時にすぐ対応してもらえる大人がいることで、さらに意欲的に活動にのぞむことができるようになりました。

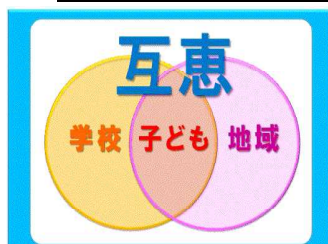
2 南部小学校コミュニティスクールとして

- 平成26年度に今までのボランティア活動の取組の延長として南部小学校コミュニティスクール（NCS）を立ち上げました。
 - ・ボランティアの方々を中心として運営委員会を組織
↓ 学校支援への意識が高まる
 - ・地域の方々によるNCS事務局の設置
ボランティア名簿の作成 会合通知の発送
ボランティア代表者との連絡・調整
お便りの発行
- 平成27年度より新たな活動も開始
 - ・あいさつ運動 ・PTA環境整備作業への参加
- 思いを共有してもらうために
 - ・学校支援ボランティアの方々には南部小学校の一員としての気持ちを共有してもらうために、NCSスタッフベストを80着用し、活動時に着用してもらっています。



スタッフベストを着ての活動

3 子ども・学校・地域、三者互恵の関係



○関係者の繋がりを強め、組織的に運営することで相乗効果が生まれました。

- ①子ども一人ひとりへの対応がより充実
- ②ボランティア自身が自主的に運営
- ③教師が時間を有効活用

(北信教育事務所生涯学習課 指導主事 後藤卓己)

平成27年度「つながる！地域子育て研修会」

研修 「信州型コミュニティスクールを立ち上げよう」

講師 信州型コミュニティスクールアドバイザー 栗林 良裕 さん
(平成27年6月26日開催 参加者 195名)

信州型コミュニティスクールアドバイザーの栗林良裕さんは、参加者のみなさんに「逆転の発想」の必要性を提案されました。研修会の要点をお伝えします。

明日から始められる"信州型コミュニティスクール"の提案

「組織を作ってから信州型コミュニティスクールに取り組もう」とお考えではありませんか。これまでと反対の発想を提案します。まず、始めてみましょう。組織は後回し。まずは、地域連携の協同型の学校づくりにしましょう。次のようなことから始めてみましょう。



- (1) 学校の壁が高いと言われています。学校の入り口を増やしましょう。
- (2) 地域の方に学校に来ていただき、子どもと学校を知ってもらいましょう。ボランティアルームがあると地域の方の居場所があり、来やすいのではないのでしょうか。
- (3) 子どもと関わっていただいた地域の方との会話を頻繁にしましょう。会話の中に学校運営参画、学校関係者評価が含まれています。日常的に地域の方の声を学校運営や学校評価に生かしていきましょう。

まず、一步を踏み出し、実践を積み上げていく中で自然に組織が固まってきます。それを信州型コミュニティスクールの運営委員会としていけばよいのです。地域連携の学校づくりに一步踏み出して欲しいです。

【参加者の感想】

- 特に信州型コミュニティスクールには、「人間力を高める」ことが最も求められるものだと思います。そのための「逆転の発想」等は、非常に参考になりました。
- 「組織づくりにとらわれない」という言葉に勇気づけられました。既に、活動の内実があるので、それを生かす方向で考えてみればいいのかと思います。
- ボランティアルームの設置をすることを、まずは考えていきたいと思いました。

(中信教育事務所生涯学習課 指導主事 三溝和美)

※県教育委員会では、信州型コミュニティスクールアドバイザー派遣事業を実施しています。学校や公民館等へ派遣可能です。詳しくは教育事務所にお尋ねください。

学校支援コーディネータースキルアップ研修①【基礎講座】

講義「学校支援を始めるために必要なこと」より

講師 小平市立学校 学校支援コーディネーター連絡協議会会長 布 昭子 さん
(平成27年6月9日開催 参加者 122名)

“コーディネーターは、お手伝いではなく、一緒に教育を進めるパートナーである”という観点から、4つの役割の重要性が語られました。その講義から抜粋して、お伝えします。



コーディネーターの4つの役割

受けとめる

- ☆実際に関わると、いろいろな声が・・・学校のニーズ、先生の悩みや喜び、ボランティアのニーズ、ボランティアの悩みや喜びを受けとめます。
- ☆子どもたちにとって、勉強がわかること、友達がいること、自分の役割があることが大事。先生方も、子どもたちを何とかしたいと願っています。

知らせる

- ☆立ち上げの頃は、知らせることが7～8割。以下のような仕事があります。
 - ・学校が必要とするボランティアの情報を伝え、募集する。
 - ・活動の様子や情報を先生、児童生徒、保護者に伝える。
 - ・地域に活動の情報を周知する。
- ☆活用できるものは、地域の広報・学校のHP・ポスターやチラシ、学校を支援する団体の会議（学校と相談の上で）、口コミ、学校行事の機会など。人と人のつながりを大切に。可能なら、笑顔で手渡ししましょう。

つなぐ

- ☆ボランティアや地域の情報を収集し、整理します。
- ☆学校のニーズを把握し、調整して、ボランティアを紹介します。
- ☆ボランティアからの希望を学校に伝えます。
- ☆学校に関する情報の共有、学校の年間の流れを見越して動くことも大切です。

育てる

- ☆かかわる大人の視点を増やして、子どもを育てます。
- ☆先生方やボランティアの研修、先生とボランティアの交流会も企画します。
- ☆コーディネーター自身も、他の地域へ出かけて学びます。

(生涯学習推進センター 専門主事 藤江玲子)

次回研修

学校支援コーディネータースキルアップ研修会②【実践講座】学校支援の可能性をひらく
日時：11月10日(火) 9:40～16:00 会場：長野県生涯学習推進センター

信州型コミュニティスクールQ&A

Q ～信州型コミュニティスクールの運営委員会に関わる
3つの要件の中の「学校関係者評価」について～

「学校運営についての意見交換」は必要なことであるが、
「学校関係者評価」とはどのようなものを想定したらよい
のかを具体的に知りたい。

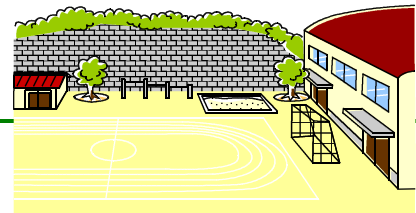


A 信州型コミュニティスクールの導入・運用における「学校関係者評価」は、
学校関係者が、学校支援活動の充実・発展を図るために実施するものです。
支援を通じて学校の実態に詳しい方々が評価等を行うことで、学校運営の実
態に即した学校支援の提案や充実が期待でき、相乗的に取組が深まっていく
ものと考えております。

例えば以下のような方法が考えられます。

- 支援に関わる方々が、学校自己評価の結果説明を受け、学校と意見交換をすること。
- 学校評議員の中に、支援に関わるコーディネーターやボランティアが加わり、学校支援活動についての話し合いを行う。

信州型コミュニティスクールは、新たな仕組みづくりを目指すものでなく、
仕組みを活用していただき、地域と共にある学校作りを推進していくもので
す。既存の組織を有効に活用したり、これまで行ってきた学校関係者評価を
効果的に実施したりして、学校の実状に合わせて、取組を進めていただきた
いと考えます。



■■ お問い合わせ先 ■■

長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課 Tel.026-235-7437 e-mail: bunsho@pref.nagano.lg.jp

東信教育事務所生涯学習課 Tel.0267-31-0252

南信教育事務所生涯学習課 Tel.0265-76-6861

南信教育事務所飯田事務所 Tel.0265-53-0460

中信教育事務所生涯学習課 Tel.0263-40-1977

北信教育事務所生涯学習課 Tel.026-234-9552

長野県生涯学習推進センター Tel.0263-53-8822

※この資料は、下記URLよりダウンロードできますので、ご活用ください。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/cs.html>